

## 学習フィードバックシート

プロジェクト名：ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」をハードウェアから開発する -

グループ名： グループ3

担当教員名：三上貞芳, 高橋信行, 鈴木昭二

学籍番号 b1018247 氏名 普久原 朝基

### 1. 自己評価

評価項目	自己評価 (点数/満点)	評価基準
出席	10 /10	無断欠席回数： ・ 0回(10点) ・ 1回(5点) ・ 2回(0点)
週報	3 /10	標準点：7点 ・ すべて提出したか？ 不備はないか？ ・ 提出期限は守られているか？ ・ 報告事項の内容は十分か？
グループ報告書	7 /10	標準点：7点 ・ 誤字、脱字はないか？ 様式、体裁は整っているか？ ・ 十分な記述量があるか？ ・ 内容に矛盾がなく、再現性や合理性があるか？ ・ 客観的な記述がされているか？
発表会	7 /10	標準点：7点 ・ ポスターはわかりやすいか？ ・ 聴講者に理解してもらえたか？ ・ 説明方法は適切であったか？
外部評価	8 /10	標準点：7点 ・ 発表会やアンケートを通じた外部からの意見の評価 ・ 検討を十分行ったか？ ・ 外部意見を課題解決策に反映することができたか？ ・ 自分勝手の課題解決策になっていないか？
積極性・協調性	7 /10	標準点：7点 ・ 自ら積極的に課題を設定したか？ ・ 自ら積極的に課題の解決策を考案したか？ ・ 自ら積極的に課題を解決したか？ ・ 課題設定・解決のために議論を十分行ったか？ ・ メンバーとお互いに協力し合ったか？
計画性	16 /20	標準 14点 ・ 適切な作業計画を立てることができたか？ ・ 適切な作業分担を行えたか？ ・ 計画通りに作業を進めることができたか？ ・ 必要に応じて柔軟に計画を修正できたか？
成果	16 /20	標準 14点 ・ プロジェクト遂行に必要な知識・技術を獲得できたか ・ プロジェクトへの貢献は十分であったか 自分たちが納得できる成果が得られたか？
合計点	75 /100	

(注)週報の不備を、システム情報科学実習のホームページ→週報の提出確認のページから確認すること。

## 2.理由

自分自身で上記の点数の評価を行ってください。その根拠はどういうものであるのかについて**10行程度**の理由を述べてください。

前期のプロジェクト活動において、私の自己評価点数は75点である。

週報の点数が低い理由について、中間発表以前の提出状況が悪く、中間発表後にまとめて提出してしまったのでこの点数をつけた。

そのほかの項目について、プロジェクトがあった日には時間通りに出席し、グループワークにおいても協調性を重視しグループメンバーとも十分にコミュニケーションを取れていた。

また、グループ週報についてもメンバーで分担して提出を行い、内容も十分基準を満たしていたと考える。

中間発表においてもポスター制作や発表などを行い、発表の成功に貢献できた。

プロジェクト発足時に目的としていた進捗も達成できていた。

以上より、概ね減点要素は少ないと判断し、標準点かプラス1、2点という自己評価を行った。

## 3. 共同作業者によるコメント

同一グループのメンバー**全員**からのコメントをもらってください。とくに、チームの中での自分の作業の良かったところ、問題のあったところなどについて。

コメンター氏名 小山内駿輔：

発想が非常に面白く、何度も関心する場面がありました。  
また話しやすく非常に優れたムードメーカーでした。

サイン 小山内駿輔

コメンター氏名 田澤卓也：

とても協調性と積極性があって頼りになった。今後に必要な知識を得ながら一緒にプロジェクト頑張らしましょう。

サイン 田澤卓也

## 3. 担当教員によるコメント

必要に応じて、担当教員からコメントをもらってください。ただし、サインは忘れずにもらっ

てください。

教員サイン 三上貞芳，高橋信行，鈴木昭二

学習ポートフォリオ\_配属時

所属プロジェクト	ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」をハードウェアから開発する -
担当教員名	三上貞芳, 高橋信行, 鈴木昭二
氏名	普久原 朝基
学籍番号	b1018247
クラス	L
配属時における学習目標は何でしたか。(複数回答可)	プロジェクトの進め方
上の質問で「その他」を選んだ人は具体的に記述してください。	
上記の目標達成のために、どのようなことを行う必要があると考えますか。(自由記述 200 文字以上)	グループメンバーと協力する
活動を成功させるために必要な努力をする自信がある	できる
証拠に基づいて意見を述べることができる	できる
自分で行った結果に対して責任を持つことができる	できる
収集した情報を体系的に整理し、活用することができる	できる
さまざまなコミュニケーションの場面において、他者の話を注意深く、忍耐強く、誠実に聞き、正しく理解できる	できる
活動の中で壁に直面したり、競争のプレッシャーがあっても、目標の達成に向けてやり抜くことができる	できる
読み手や目的に合わせて、正確にわかりやすい文章を書くことができる	できる

自分とは異なる意見が提示された際、冷静に分析し、自分の考え方を再考したり修正したりできる	できる
情報を調査・整理・評価・伝達・共有する手段として ICT を利用できる	できる
どのような状況においても意欲的に活動に取り組むことができる	できる
グループのメンバーの状況を理解し、支援する	できる
どのような状況においても意欲的に活動に取り組むことができる	できる
プライバシーや文化の差異に配慮して、責任をもって注意深くインターネット環境を利用できる	できる
守秘業務、プライバシー、知的所有権に配慮しながら、身近な問題を解決するために、正確かつ創造的に ICT を利用できる	できる
他人に関心を寄せ、他人を尊重することができる	できる

学習ポートフォリオ\_中間

所属プロジェクト	ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」をハードウェアから開発する -
担当教員名	三上貞芳, 高橋信行, 鈴木昭二
氏名	普久原 朝基
学籍番号	b1018247
クラス	L
配属時における学習目標は何でしたか。(複数回答可)	プロジェクトの進め方
上の質問で「その他」を選んだ人は具体的に記述してください。	
上記の目標達成のために、どのようなことを行いましたか。(自由記述 200 文字以上)	プロジェクト発足時に掲げた上記の目標を達成するために、グループメンバーとの普段のコミュニケーションをできるだけ密に行い、各々の「理想の接客ロボット店員」に対するアイデアを提案しあいそれぞれ共有し、グループでの完成形となる「理想の接客ロボット店員」をイメージし実際にソフトウェアを用いてモデルとして起こした。そしてそのモデルをスタイロフォームを用いて実物大モデルとして制作してサイズ感の確認を行い、各自必要なことについて勉強を行った。
前期の活動を終えて、学習目標は変化しましたか？ 現時点（7月末）における学習目標を選択してください。(複数回答可)	e. 学生同士でのコミュニケーション f. 教員とのコミュニケーション g. 技術・知識の習得方法 h. 技術・知識の応用方法 i. 作業を楽しく行う方法 l. 課題の解決方法
上の質問で「その他」を選んだ人は具体的に記述してください。	

<p>(9の質問で学習目標が変化した学生)</p> <p>学習目標が変わった理由は何ですか？(200文字以上)</p>	<p>実際にプロジェクト活動をしていく中で、機構学や電子工作、3DCADを用いての3Dモデルの作成方法など、制作していくために必要な学問やソフトなどの勉強をしていくことで、制作物に対する完成形のイメージが固まり、今現在わかることとわからないことを比較して必要な事柄の勉強の仕方などがわかってきた。そのことで夏休みや後期にかけてどうしていくことがプロジェクトの成功につながるのかということが明確に定まったからである。</p>
<p>後期、学習目標の達成のために、どのようなことを行う必要があると考えますか。(200文字以上)</p>	<p>前期で行ったことに対しての必要な知識の習得はもちろん、グループ内のコミュニケーションを前期よりも密にとることだけではなく、ほかのグループとのコミュニケーションをこれまでよりもさらに密に図っていく必要がある。また、プロジェクトメンバーでお互いに学んだことを他のグループメンバーやプロジェクトメンバーにアウトプットしていき、自分たちが考えている制作物に対していいところは取り入れ、悪いところは改善していく必要がある。</p>
<p>前期の活動を振り返って、活動全体の印象や感想を書いてください。(自由記述 200 文字以上)</p>	<p>最初の頃は皆初めてのことばかりでどうすればいいか分からずに衝突も起きたりはしたが、担当教員の先生方のアドバイスや叱咤激励、プロジェクトメンバー同士のコミュニケーションの効率化などもあり、最初期よりもプロジェクトの雰囲気が良くなった。またある程度個人での学習が進んだためにお互いにフィードバックをしあえるようになった。後期では前期以上にグループ間のコミュニケーションを図り、また他グループともより密にコミュニケーションを取りたい。</p>

グループメンバーと協力することにより、課題を見出し、解決できる	できる
活動を成功させるために必要な努力をする自信がある	できる
活動を成功させるために必要な努力をする自信がある	できる
根拠に基づいて意見を述べることができる	できる
自分で行った結果に対して責任を持つことができる	できる
収集した情報を体系的に整理し、活用することができる	できる
さまざまなコミュニケーションの場面において、他者の話を注意深く、忍耐強く、誠実に聞き、正しく理解できる	できる
活動の中で壁に直面したり、競争のプレッシャーがあっても、目標の達成に向けてやり抜くことができる	できる
読み手や目的に合わせて、正確にわかりやすい文章を書くことができる	できる
自分とは異なる意見が提示された際、冷静に分析し、自分の考え方を再考したり修正したりできる	できる
情報を調査・整理・評価・伝達・共有する手段として ICT を利用できる	できる